

令和5年度 江戸川区立西葛西中学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 心身ともに健康でたくましくがんばりぬく生徒 よく学び考えて実践する生徒 思いやりがあり社会に貢献できる生徒 	<ul style="list-style-type: none"> 目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像 	<ul style="list-style-type: none"> <学校>安心して登校でき(いじめなし)、満足して下校できる学校(成就感・達成感あり) <生徒>何事に対しても一生懸命に取り組み、基礎・基本を身に付けるため授業を大切にする生徒 <教師>一歩先にチャレンジ(前例踏襲ではなく、一つ工夫を)
前年度までの学校経営上の成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <成果>・新型コロナウイルス感染防止対策を万全にし、教育活動を可能な限りコロナ前に戻すように努めた。 ・学校公開・運動会・学芸発表会・合唱コンクールや林間学校・修学旅行等の行事を実施することができ、保護者・地域にも公開する機会を増やした。 <課題>・共生社会の実現に向けた教育の推進 ・教員のICT活用能力の向上とICT機器を活用した授業の推進 ・体力の向上 		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた改善策
				取組	成果	成果と課題	評価	
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> 「誰一人取り残さないための学力向上アクションプラン」を実践する。 全国学力調査等の結果を分析し、授業改善に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> アクションプランの各教科・各学年への周知を徹底し、1学期より取組をスタートする。 調査の結果から生徒の学力の強みを伸ばし、弱みを補強する取組を各教科で実践する。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○全国学力調査の結果を分析し、授業改善に生かした。 ○漢字・計算・英語スプレッドの各コンテストを各学年で行った。 ●アクションプランの取組が徹底しなかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学力が低下気味ということが、西葛西中は今までできていく。 ・国・数・英を中心に、基礎学力が定着していない生徒の指導に力を注ぐ。 ・アクションプランの実施を徹底する。
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> 朝読書を実施する。 探究的な学習において、資料の収集の仕方や記録の取り方、自己の考えをまとめて表現する方法を指導する。 教科等の学習で図書館を利用する。 ピピロパバトル等の取組 	<ul style="list-style-type: none"> 朝読書一毎日 各学年の宿泊・旅行等の際に学校図書館を利用した探究的な学習を行う。 教科等の学習で年1回以上は図書室で授業を行う。 週1回のボランティア及び西葛西図書館職員による整備 夏休み明けに本に関する取組を実施する。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○朝読書は実践できた。 ○9月に読書週間を設けて読書の推進を行った。 ○各学年の校外学習・宿泊行事の事前学習、職業調べなどの進路に関する学習において、学校図書館や蔵書を利用した。 ○読書ボランティアの活動は順調に実施できた。 ●教科での図書室の利用は一部の教科にとどまった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 探究的な学習に関して、インターネットで調べることが主流になっているから仕方ないが、本の利用も推進できると生徒にとってプラスになることがあるのではないかと。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上>	<ul style="list-style-type: none"> スポーツテストの結果を踏まえて、強い点は伸ばし、弱い点を補う運動を保健体育の授業及び運動部活動に取り入れる。 生徒が自らの体力向上を意識して主体的に運動に取り組めるような授業及び部活動等を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間の保健体育の授業の始めに各学年共通した補強運動を実施する。 スポーツテストの結果を生徒自身が理解し、自ら体力向上の目標を立てる。 毎時間ペアやグループ活動を取り入れ、生徒が主体的に取り組む授業を行う。 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ○保健体育の授業で補強運動を実施した。 ○保健体育の授業でペアやグループ活動を取り入れ、生徒が主体的な取組を推進した。 ●どれだけ体力の向上が見られたかについては結果が出るまでに時間がかかる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「健全な精神は健全な肉体に宿る」という言葉があるのとおり、体力をつけさせることは大切である。
共生社会の実現に向けた教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育の推進 ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 エンカレッジルームの活用促進 副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実 	<ul style="list-style-type: none"> 授業及び学級指導においてユニバーサルデザインを取り入れた実践を行う。 不登校生徒や適応障害のある生徒の別室登校及び居場所としてエンカレッジルームを活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 全学級で実施する。 ステップサポーター及び教員の見守り態勢を整え、別室登校の回数を増やしていく。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○毎日、エンカレッジルームに登校する生徒が数名おり、教室での授業に参加できる生徒も出た。 ○別室指導支援員を年度途中で増員し、対応を強化した。 ●ユニバーサルデザインを取り入れた教室環境や授業は一部にとどまった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 校内別室指導支援員という制度は、教室に入れない生徒及び教員にとってプラスになると思われる。
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper-QUの活用	<ul style="list-style-type: none"> 不登校の未然防止 いじめ防止のための取組強化(道徳授業、人権教育プログラムの活用) 「hyper-QU」の結果を生かし学級における好ましい人間関係を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校傾向の生徒との関わりを増やす。週1回以上家庭との連絡を取る。 いじめや人権に関する授業を学期に1回以上実施する。 6月に実施する「hyper-QU」の結果を分析し、学級指導に生かす。 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ○hyper-QUを年2回(6月・11月)行い、結果を学級経営に活用した。 ○Q-Uの活用に関して、年2回(9月・1月)に外部から講師を招いて校内研修を行った。 ○いじめや人権に関する授業を各学期に1回以上実施した。 ●1、2年生で不登校生徒の数が増えてしまった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 不登校生徒一人ひとりの状況を把握し校内委員会で情報を共有して、実態に応じた指導や対応を組織的に行う。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりを始めとする各種たり、学校ホームページ、一人一台端末等を活用して、保護者・地域に積極的に教育活動を発信する。 新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、教育活動の保護者・地域への公開を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年4回土曜公開授業を行う。 学校だよりは月1回、学年だよりは週1回発行し、学校ホームページは毎週更新する。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○年4回土曜公開授業を行った。 ○学校だよりは月1回、学年だよりは週1回発行し、学校ホームページは毎週更新した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育活動の様子を知ることができて良い。
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動に関するアンケート調査の実施 学校評議員の来校推進 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評議員、保護者への教育活動に関するアンケート調査の実施(12月) 生徒への授業アンケートの実施(12月) 学校公開・学校行事等への学校評議員・地域住民の積極的な招待 学校評議員会の開催一年3回に増やす 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者への教育活動に関するアンケート調査を実施した。(12月) ○生徒への授業アンケートを実施した。(12月) ○学校公開・学校行事等への学校評議員・地域住民の積極的な招待ができた。 ●学校評議員会が年3回実施できなかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 保護者への教育活動に関するアンケート調査や生徒への授業アンケートの結果を、教育活動に生かせるとう良い。
特色ある教育の展開	ボランティア活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 区及び地域の各種ボランティア活動への参加 生徒会を中心としたユニセフの活動への参加 	<ul style="list-style-type: none"> 自転車盗ゼロ作戦やジュニア訪問員等のボランティア活動への生徒の参加を促進する。 ユニセフ募金等の活動に参加する。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○6月の自転車盗ゼロ作戦にボランティアとして49名の生徒が参加した。 ○吹奏楽部が地域の行事等に積極的に参加して演奏し、地域貢献を果たした。 ○生徒会主催でユニセフ募金を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 吹奏楽部の活動は素晴らしい。